

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホーム コスモス向陽台	ユニット名	ふじ
所在地	宮城県仙台市泉区向陽台5丁目16番20号		
自己評価作成日	平成30年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と一緒に季節感のある行事や貼り絵を製作し飾って楽しんでいます。食事面では手作りのケーキなどを提供し召し上がって頂いたり、季節のフルーツや食材を使用したものを提供し召し上がって頂き、季節を味わって頂いております。施設南側斜め向かいに公園があり、天気の良い時に散歩にいき外気浴を楽しむことができます。また、外食ドライブに出かけ、喜ばれております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

向陽台団地内にある開設4年目のホームは、間近に向陽台小学校が見え、静かな環境にある。夏祭りや芋煮会行事は隣接するデイサービスと合同で開催している。出店や子供たちの太鼓演奏披露などを企画して、地域住民と交流している。毎月の職員勉強会などの話し合いの中で、ケアの気づきや情報、提案を取り入れ、協力し合うチームワークの大事さを意識しながら入居者の思いに寄り添っている。家事や趣味などの出来る事を見守り、入居者の意欲や喜びに繋げている。目標達成計画の「接遇委員会と身体拘束防止委員会の設置、毎月の勉強会実施」「ケアプランの見直し」は達成している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成31年1月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 GHコスモス向陽台)

「ユニット名 ふじ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域福祉の向上」を目指すと共に住民としても進んで参加しますと掲げており、毎朝唱和し共有し実践に繋がるよう努力しています。	年度初めにユニット毎に理念を話し合い、ケアを振り返った。チームワークの大事さを共有し、相談や協力し合う事を確認した。入居者への敬愛する姿勢を持ち、思いに寄り添うケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが持てる様、挨拶をしっかりと行い会話するなどしていきながら、良い関係を繋げていけるよう心掛けています。	隣接するデイサービスと合同開催の夏祭り、芋煮会に地域住民を招待し交流している。近隣住民の絵本の読み聞かせボランティアが毎月来訪したり、小学生の職場見学交流会がある。町内会に加入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流会を通じて、事業所の特色や取組みなど伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を実施し、運営状況や取組みを報告し話し合いを行っています。意見を取り入れサービスの質の向上につなげています。	会議に地域包括職員が出席し、生活状況の報告後に、質問や助言、地域の情報を得ている。公園に花壇できた話を聞き、散歩の楽しみになった。参加者の提案で、交番に出向き、見守りを依頼した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市担当者との連絡は密にとっておりませんが、相談や不明な点があった際にその都度連絡を入れています。	介護認定の更新手続きや生活保護受給変更に伴う書類提出など、その時々で状況を話している。毎月「排泄介護のポイントと工夫」などの研修案内があり参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を一切実施しないケアを実施しており、マニュアルなどで確認し理解するよう努めています。	身体拘束防止委員会が中心になり、勉強会をしている。不適切ケアがないかを話し合い、制止の言動をしないことや車椅子利用の方を壁側だけに固定しないなど、共有している。外出傾向が見られた時は、さり気なく寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部にて虐待についての研修を行い学び、日頃から虐待を起さぬように努めています。介護ストレスからの虐待もあるので、個々においてストレスの軽減が図れるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部にて権利擁護についての研修を行い学んでいますが、制度を活用されている方がいない為、今後必要に応じて支援していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧に内容を説明し、ご理解ご納得頂いたうえで記名押印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	経営者ならびに管理者が一体となって運営作りを行えるよう、運営推進会議やご面会時にご家族様から意見要望を伺い、運営に反映できる様努めています。	来訪時に会話を心掛け、要望を聞くように努めている。ワンプレートの食器を変更し、茶碗や小鉢、皿を買い揃えた。絵本の読み聞かせボランティアの紹介があり、絵本や合唱を毎月楽しんでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者ならびに管理者が一体となって運営作りを行えるよう、スタッフから面談や会議において意見等吸い上げ、運営に反映できる様努めています。	おやつを既製品だけでなく、入居者が好むどら焼きなどを手作りすることや、クレヨンの誤食防止で色鉛筆使用などの提案があり、実施している。業務フローを見直す意見で、入居者とゆったり過ごす時間を確保できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者及び管理者が一体となって働きやすい職場になるよう、面談や人事評価をおこないながら、職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や毎月のスタッフ研修並びに外部研修などの機会も設けて、資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や同業者との交流会など参加する機会を設けてサービスの向上に努めて参りたいと思うのですが、職員の不足もあり交流の機会が持てずにいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の不安事や要望等に耳を傾け、状況を把握し、ケアに活かしていくための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安事に耳を傾け、ご本人様と共にご家族様も支援していけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の要望等を聞き入れ、会話やケアを通じて、何が必要とされているのかを見極め、ご本人様ご家族様の安心に結びつけた対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の今までの生活歴を把握し、あくまでもご本人様のペースや体力等に合わせたケアや支援が出来る様配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所後もご本人様とご家族様がいつまでも繋がりが持てる様連携を取り合い、共に考えながらまた、他業種の方々や地域とも連携を図りながら支えていける様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物品を持参して頂きご本人様の居室や手の届くところに置き居心地の良い場所となる様に努めています。また散歩や外出時には馴染みのある場所に行き思いで頂ける様な支援を行っています。	親戚の来訪がある。家族と行きつけの美容院に行ったり、デイサービスとの夏祭り合同行事などで知人の利用者と交流している。紅葉ドライブ先に賀茂神社や県民の森など、馴染みの場所を選んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話したり、一緒にレクリエーションを行って楽しんで頂ける様な配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認を行っております。施設を変わられた場合は、その行き先の施設担当者に情報を提供し、支えあえる様努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の出来る事ややりたい事、昔から行ってきた事を把握し、可能な限り実現出来るよう、ケアに取り入れ取り組んでいます。	寄り添って話を聞くことを心掛けている。「船に乗っていた」ことを知り、図鑑を見る楽しみに繋げた。踊り等、好きなことを捉えてレクリエーション活動に取り入れている。日課とした掃除などを手伝う意欲を尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴や環境を把握しケアに活かして支援できる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の心身の状態や、できる事・できない事の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の今の現状を把握した上で今後の課題とケアの方向性を毎月1回のカンファレンスにてスタッフから伺い、またご面会時などでご家族様からの意見を聞き取り、話し合いし、その結果を介護計画に活かしていくよう努めています。	カンファレンスでの情報、受診時の医師意見を入れて、6ヵ月毎に見直し作成している。本人や家族から「外出を多く」「歩けなくならないように」などの要望で、屋内で歩く時間を取るなどを計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録など記入し、スタッフ間で情報を共有し実践し結果経過から介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや外食、買い物など他サービスの協力を頂きながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源をご家族様並びにご親族やご友人の方々に伺い把握し、関係性が途絶えることの無いようにしながら楽しんで生活できるように支援を努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけ医の主治医が往診にきて下さり、報告相談しながら適切な医療をうけられる様支援しています。	全員が協力医を希望し、定期的に往診を受けている。認知症、整形外科などの専門医への通院は職員が付き添い、家族に報告している。受診内容を看護業務日誌に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師や訪問看護師に報告相談を行い連携をとり、受診や看護を受けられる様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて連携をとりあい、つど情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて、入居時や必要時にご家族様と話し合い方針を共有しています。	入居時に看護師や訪問診療の協力体制で、看取り対応ができることを話している。状況を見ながら「看取りに関する指針」で支援内容を説明し、家族の意向を確認している。入院、施設入所、看取りそれぞれの希望に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた研修を行っており、対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い災害時に対応できる様備えており、地域のご協力が頂けるよう築いています。	夜間の火災発生を想定した避難訓練を1回実施している。防災監視盤の見方や、消火器の使用方法が分からないなどの反省点を記録している。地域住民の訓練参加がない。	入居者の安全安心の為、県のガイドライン・指針に基づいて年2回以上の訓練と地域住民の協力を含めた避難訓練を実施していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルや認知症研修にて言葉かけや尊厳を学び、一人ひとりを尊重出来る様、プライバシーが守れるよう努めています。	人生の先輩として敬う姿勢で接することや、制止の言動をしないことを心掛けている。起床や食事開始の時間など、それぞれの希望に対応している。失禁に気付いた時はさりげない言葉をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思表示や自己決定ができるように、また好きな飲み物などを選んでもらったりするなど声掛けを工夫していくよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースを守り、本人の思いに沿って過ごして頂けるような配慮を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらい来て頂いたり、髪形や髭など身だしなみに配慮して支援行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りや盛り付けなど行ってもらい、事困難になってきておりますが、食器拭きやテーブル拭きを手伝って頂ける様声掛けや支援を行っています。	副食の献立表と食材の配達業者は委託している。ひつまぶしなどの特別メニューを選択できる。主食は季節の栗ご飯や七草粥、パン、誕生日は寿司やカレーライスなど、入居者の好みに応じる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を常に把握し、必要な栄養や水分が摂取できる様配慮し、本人の体調や嚥下状態等も把握しながら食事形態を考え提供し支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めています。必要時には訪問歯科に相談し治療をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のオムツ使用をできるだけ行わず、定時的にトイレへの誘導声掛けを行い排泄を促すよう努めています。	排泄チェック表にそった声掛けや、キョロキョロしたり、もぞもぞし始めるなどのサインを捉え、トイレでの排泄を支援している。重度の方は職員2人で介助している。夜間だけおむつを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や体調、運動不足など多角的に捉え自然排泄が出来る様支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴ができるようにしていますが、一人ひとりの体調に合わせて柔軟に変更したり、本人の入浴希望の時間に合わせられる様に行っています。	希望する時間に沿って週2～3回入浴している。使い慣れた好みのシャンプーを使用している。体調により、体にバスタオルをかけて足湯とシャワー浴をしている。入浴を嫌がる時は、時間や日を変えて声を掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温湿度の管理を行い、且つ個室内での転倒防止にも出来る範囲で努めていき安心して休んで頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に基づき、服薬事故の起こぬようスタッフ間でもダブルチェックを実施しています。また、常勤看護師にも内服時間や方法など相談しながら且つ医師にも相談を行いながら適切な服薬が出来る様に支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔行っていた趣味や楽しみごとをご家族様から伺い行って頂けるよう支援しています。またできる事に配慮した支援をし、手伝いなど役割と感じて頂き活気のある日々を過ごして頂ける様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ドライブや隣接のディサービスでの行事に参加して支援を行っています。またご家族様とも協力し外出を楽しんで頂ける様支援しています。	団地内の桜の花見ドライブや、賀茂神社などへの紅葉ドライブがある。希望でカフェや洋品店、スーパーに行き、買い物などを行っている。天気が良い日は近くの公園へ、花壇やイルミネーションを見に散歩している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個別でお金の管理を行える方が少なく、スタッフ預かりとしていますが、ご本人やご家族様からの希望に応じておこづかいの中から買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご家族様への電話連絡が自由に行われるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節感をかんじることの出来る飾りつけを行っており居心地の良く感じる空間作りに努めています。明るさや温湿度にも配慮行っています。	食堂兼リビングにエアコンと大きめのソファが備えてある。冬季は加湿器を置き、室内の乾燥に配慮している。午前と午後に窓を開けて換気をしている。ユニット毎の壁に干支の猪、梅に鶯の貼り絵作品を飾り、季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは話し相手となったり、お互いの相性を考慮して座席を決めています。ご本人の意思にて席が変わられることも柔軟に対応を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みのある物品や写真など持参して頂きご本人の居室に置き、居心地のよく安心した生活が送れる様に配慮行っています。	エアコン、ベッド、クローゼットが備えてある。使い慣れた肘掛け椅子を置き、ラジカセや絵画、パッチワークの壁掛けを飾るなど、それぞれの思いや趣味が感じられる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の確保や明るさへの配慮を行い安全に配慮した環境作りが出来る様工夫しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホーム コスモス向陽台	ユニット名	さくら
所在地	宮城県仙台市泉区向陽台5丁目16番20号		
自己評価作成日	平成30年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様と一緒に季節感のある行事にて楽しむことができ、また季節に合わせた貼り絵を製作し飾って楽しんでいる。おやつは手作りのケーキなどを提供し召し上がって頂いたり、季節のフルーツや食材を使用したものを提供し召し上がって頂き、季節を味わっています。施設南側斜め向かいに公園があり、天気の良い時に散歩にいき外気浴を楽しむことができます。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成31年1月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>向陽台団地内にある開設4年目のホームは、間近に向陽台小学校が見え、静かな環境にある。夏祭りや芋煮会行事は隣接するデイサービスと合同で開催している。出店や子供たちの太鼓演奏披露などを企画して、地域住民と交流している。毎月の職員勉強会などの話し合いの中で、ケアの気づきや情報、提案を取り入れ、協力し合うチームワークの大事さを意識しながら入居者の思いに寄り添っている。家事や趣味などの出来る事を見守り、入居者の意欲や喜びに繋げている。目標達成計画の「接遇委員会と身体拘束防止委員会の設置、毎月の勉強会実施」「ケアプランの見直し」は達成している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 GHコスモス向陽台)

「ユニット名 さくら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域福祉の向上」を目指すと共に住民としても進んで参加しますと掲げており、毎朝唱和し共有し実践に繋がるよう努力しています。	年度初めにユニット毎に理念を話し合い、ケアを振り返った。チームワークの大事さを共有し、相談や協力し合う事を確認した。入居者への敬愛する姿勢を持ち、思いに寄り添うケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが持てる様、挨拶をしっかりと行い会話するなどしていきながら、良い関係を繋げていけるよう心掛けています。	隣接するデイサービスと合同開催の夏祭り、芋煮会に地域住民を招待し交流している。近隣住民の絵本の読み聞かせボランティアが毎月来訪したり、小学生の職場見学交流会がある。町内会に加入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流会を通じて、事業所の特色や取組みなど伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を実施し、運営状況や取組みを報告し話し合いを行っています。意見を取り入れサービスの質の向上につなげています。	会議に地域包括職員が出席し、生活状況の報告後に、質問や助言、地域の情報を得ている。公園に花壇できた話を聞き、散歩の楽しみになった。参加者の提案で、交番に出向き、見守りを依頼した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市担当者との連絡は密にとっておりませんが、相談や不明な点があった際にその都度連絡を入れています。	介護認定の更新手続きや生活保護受給変更に伴う書類提出など、その時々で状況を話している。毎月「排泄介護のポイントと工夫」などの研修案内があり参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を一切実施しないケアを実施しており、マニュアルなどで確認し理解するよう努めています。	身体拘束防止委員会が中心になり、勉強会をしている。不適切ケアがないかを話し合い、制止の言動をしないことや車椅子利用の方を壁側だけに固定しないなど、共有している。外出傾向が見られた時は、さり気なく寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部にて虐待についての研修を行い学び、日頃から虐待を起さぬよう努めています。介護ストレスからの虐待もあるので、個々においてストレスの軽減が図れるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部にて権利擁護についての研修を行い学んでいますが、制度を活用されている方がいない為、今後必要に応じて支援していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧に内容を説明し、ご理解ご納得頂いたうえで記名押印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	経営者ならびに管理者が一体となって運営作りを行えるよう、運営推進会議やご面会時にご家族様から意見要望を伺い、運営に反映できる様努めています。	来訪時に会話を心掛け、要望を聞くように努めている。ワンプレートの食器を変更し、茶碗や小鉢、皿を買い揃えた。絵本の読み聞かせボランティアの紹介があり、絵本や合唱を毎月楽しんでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者ならびに管理者が一体となって運営作りを行えるよう、スタッフから面談や会議において意見等吸い上げ、運営に反映できる様努めています。	おやつを既製品だけでなく、入居者が好むどら焼きなどを手作りすることや、クレヨンの誤食防止で色鉛筆使用などの提案があり、実施している。業務フローを見直す意見で、入居者とゆったり過ごす時間を確保できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者及び管理者が一体となって働きやすい職場になるよう、面談や人事評価をおこないながら、職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や毎月のスタッフ研修並びに外部研修などの機会も設けて、資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や同業者との交流会など参加する機会を設けてサービスの向上に努めて参りたいと思うのですが、職員の不足もあり交流の機会が持てずにいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の不安事や要望等に耳を傾け、状況を把握し、ケアに活かしていくための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安事に耳を傾け、ご本人様と共にご家族様も支援していけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様の要望等を聞き入れ、会話やケアを通じて、何が必要とされているのかを見極め、ご本人様ご家族様の安心に結びつけた対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の今までの生活歴を把握し、あくまでもご本人様のペースや体力等に合わせたケアや支援が出来る様配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所後もご本人様とご家族様がいつまでも繋がりが持てる様連携を取り合い、共に考えながらまた、他業種の方々や地域とも連携を図りながら支えていける様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物品を持参して頂きご本人様の居室や手の届くところに置き居心地の良い場所となる様に努めています。また散歩や外出時には馴染みのある場所に行き思いで頂ける様な支援を行っています。	親戚の来訪がある。家族と行きつけの美容院に行ったり、デイサービスとの夏祭り合同行事などで知人の利用者と交流している。紅葉ドライブ先に賀茂神社や県民の森など、馴染みの場所を選んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話したり、一緒にレクリエーションを行って楽しんで頂ける様な配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認を行っております。施設を変わられた場合は、その行き先の施設担当者に情報を提供し、支えあえる様努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の出来る事ややりたい事、昔から行ってきた事を把握し、可能な限り実現出来るよう、ケアに取り入れ取り組んでいます。	寄り添って話を聞くことを心掛けている。「船に乗っていた」ことを知り、図鑑を見る楽しみに繋げた。踊り等、好きなことを捉えてレクリエーション活動に取り入れている。日課とした掃除などを手伝う意欲を尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴や環境を把握しケアに活かして支援できる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の心身の状態や、できる事・できない事の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の今の現状を把握した上で今後の課題とケアの方向性を毎月1回のカンファレンスにてスタッフから伺い、またご面会時などでご家族様からの意見を聞き取り、話し合いし、その結果を介護計画に活かしていくよう努めています。	カンファレンスでの情報、受診時の医師意見を入れて、6ヵ月毎に見直し作成している。本人や家族から「外出を多く」「歩けなくならないように」などの要望で、屋内で歩く時間を取るなどを計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録など記入し、スタッフ間で情報を共有し実践し結果経過から介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや外食、買い物など他サービスの協力を頂きながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源をご家族様並びにご親族やご友人の方々に伺い把握し、関係性が途絶えることの無いようにしながら楽しんで生活できるように支援を努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけ医の主治医が往診にきて下さり、報告相談しながら適切な医療をうけられる様支援しています。	全員が協力医を希望し、定期的に往診を受けている。認知症、整形外科などの専門医への通院は職員が付き添い、家族に報告している。受診内容を看護業務日誌に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師や訪問看護師に報告相談を行い連携をとり、受診や看護を受けられる様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて連携をとりあい、つど情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて、入居時や必要時にご家族様と話し合い方針を共有しています。	入居時に看護師や訪問診療の協力体制で、看取り対応ができることを話している。状況を見ながら「看取りに関する指針」で支援内容を説明し、家族の意向を確認している。入院、施設入所、看取りそれぞれの希望に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた研修を行っており、対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い災害時に対応できる様備えており、地域のご協力が頂けるよう築いています。	夜間の火災発生を想定した避難訓練を1回実施している。防災監視盤の見方や、消火器の使用方法が分からないなどの反省点を記録している。地域住民の訓練参加がない。	入居者の安全安心の為、県のガイドライン・指針に基づいて年2回以上の訓練と地域住民の協力を含めた避難訓練を実施していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルや認知症研修にて言葉かけや尊厳を学び、一人ひとりを尊重出来る様、プライバシーが守れるよう努めています。	人生の先輩として敬う姿勢で接することや、制止の言動をしないことを心掛けている。起床や食事開始の時間など、それぞれの希望に対応している。失禁に気付いた時はさりげない言葉をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思表示や自己決定ができるように、また好きな飲み物などを選んでもらったりするなど声掛けを工夫していくよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースを守り、本人の思いに沿って過ごして頂けるような配慮を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらい来て頂いたり、髪形や髭など身だしなみに配慮して支援行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りや盛り付けなど行ってもらい、事困難になってきておりますが、食器拭きやテーブル拭きを手伝って頂ける様声掛けや支援を行っています。	副食の献立表と食材の配達業者は委託している。ひつまぶしなどの特別メニューを選択できる。主食は季節の栗ご飯や七草粥、パン、誕生日は寿司やカレーライスなど、入居者の好みに応じる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を常に把握し、必要な栄養や水分が摂取できる様配慮し、本人の体調や嚥下状態等も把握しながら食事形態を考え提供し支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めています。必要時には訪問歯科に相談し治療をお願いしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のオムツ使用をできるだけ行わず、定時的にトイレへの誘導声掛けを行い排泄を促すよう努めています。	排泄チェック表にそった声掛けや、キョロキョロしたり、もぞもぞし始めるなどのサインを捉え、トイレでの排泄を支援している。重度の方は職員2人で介助している。夜間だけおむつを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や体調、運動不足など多角的に捉え自然排泄が出来る様支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴ができるようにしていますが、一人ひとりの体調に合わせて柔軟に変更したり、本人の入浴希望の時間に合わせられる様に行っています。	希望する時間に沿って週2～3回入浴している。使い慣れた好みのシャンプーを使用している。体調により、体にバスタオルをかけて足湯とシャワー浴をしている。入浴を嫌がる時は、時間や日を変えて声を掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温湿度の管理を行い、且つ個室内での転倒防止にも出来る範囲で努めていき安心して休んで頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に基づき、服薬事故の起こぬようスタッフ間でもダブルチェックを実施しています。また、常勤看護師にも内服時間や方法など相談しながら且つ医師にも相談を行いながら適切な服薬が出来る様に支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔行っていた趣味や楽しみごとをご家族様から伺い行って頂けるよう支援しています。またできる事に配慮した支援をし、手伝いなど役割と感じて頂き活気のある日々を過ごして頂ける様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ドライブや隣接のディサービスでの行事に参加して支援を行っています。またご家族様とも協力し外出を楽しんで頂ける様支援しています。	団地内の桜の花見ドライブや、賀茂神社などへの紅葉ドライブがある。希望でカフェや洋品店、スーパーに行き、買い物などを行っている。天気が良い日は近くの公園へ、花壇やイルミネーションを見に散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個別でお金の管理を行える方が少なく、スタッフ預かりとしています。ご本人やご家族様からの希望に応じておこづかいの中から買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご家族様への電話連絡が自由に行われるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節感をかんじることの出来る飾りつけを行っており居心地の良く感じる空間作りに努めています。明るさや温湿度にも配慮行っています。	食堂兼リビングにエアコンと大きめのソファが備えてある。冬季は加湿器を置き、室内の乾燥に配慮している。午前と午後に窓を開けて換気をしている。ユニット毎の壁に干支の猪、梅に鶯の貼り絵作品を飾り、季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは話し相手となったり、お互いの相性を考慮して座席を決めています。ご本人の意思にて席が変わられることも柔軟に対応を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みのある物品や写真など持参して頂きご本人の居室に置き、居心地のよく安心した生活が送れる様に配慮行っています。	エアコン、ベッド、クローゼットが備えてある。使い慣れた肘掛け椅子を置き、ラジカセや絵画、パッチワークの壁掛けを飾るなど、それぞれの思いや趣味が感じられる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の確保や明るさへの配慮を行い安全に配慮した環境作りが出来る様工夫しています。		